

# 俳句集



令和三年度 第十七回

亀山市民俳句会

(小・中学生の部 入選作品)



主催 亀山市・亀山俳句会



選者

前田照子先生	坂口緑志先生	石井いさお先生
--------	--------	---------





亀山西小学校 五年生

特選 水やりで大きなトマト見つけたよ

特選 暑い夏トマトぷちつとはじけとぶ。

特選 あみ構え魚とぼくとにらめっこ

特選 夏げいこ汗でほどけぬどうのひも。

秀逸 しその葉に大きなしずくきれいだな

秀逸 セミの声木にはりついてかかれてる

秀逸 風りんのリンリンひびく風の声

秀逸 台風でゆれる木や花たえている

秀逸 秋の空長ぐつはいてくり拾う

秀逸 海に行くうきわ選びでまよってる

ふるあがりすごくおいしいかき氷

目をかくし五回まわってすいかわり  
ぎらぎらと太陽のひざし夏の海  
台風がぐるぐる回って進みだす  
うまかった家で育てたミニトマト  
水しぶきかん声あがる大暑かな  
おどろきの急な夕立にかさは無し  
海の風気持ちがいいな夏の風  
すいかわりわれてすっきり楽しいな  
Nコンでともに奏でるハーモニー  
ひらひらとちりゆく葉っぱ赤色だ  
すすきの穂ゆらゆらゆれて楽しそう  
耳すまし違いを楽しむ秋の声

緑から赤みを帯びたミニトマト  
えん天下セミの鳴き声鳴りやまず  
竜川のほたるの光道案内  
秋の夜すすきがゆれて歌ってる  
夏休み進まないノートをながめる  
スイカわりきれいな赤色タネばかり  
サングラスなつのひざしがまぶしくて  
夏の朝早起きすれば気持ちいな  
イチョウが木からひらひらダイビング  
晴れの日にお庭にアゲハチョウとんでいる  
せみがなく命のかぎりミンミンと  
セミの声めざましの音鳴りひびく

亀山南小学校 三年生

夏休みおもちをたべておなかいっぱい  
夏の海ゆらゆらゆらとひかっている  
日がくれて虫がなきだす秋のこえ  
おはようさんあさがおさんがわらっている。  
ゆつくりと風にゆれおどる木とおちば

秀 逸 なつやすみアイスといっしょにとけちやった

秀 逸 秋の朝風と読書がきもちいい

秀 逸 すずがなるかれはがおちる秋のかぜ

秋の朝どんぐりひろいたのしいな  
夏休み花火といっしょになくなった  
コスモスを見てるときっと心おどる



亀山南小学校 五年生

冬近く寒くてせんとう行きたいな  
秋の風おちばがおちるゆらゆらと  
ひまわりがさいたよさいたうれしいな。  
がんばろうレベルをあげてにがっきだ  
紅葉がきらきら光りあざやかだ

特選 どんぐりが転がっている帰り道  
秀逸 もみじちる川のほとりでうん動会  
秀逸 夜の原しずかにひびく虫の声  
秀逸 笑顔してみんなでほおぼる秋のいも  
秀逸 ひまわりの大きな葉っぱでかくれんぼ  
秀逸 まっ白な曼殊沙華さく帰り道

野登小学校 五年生

かわせみは幸運の鳥あいたいな  
秋の日のたまにごほうびモンブラン  
金色に光かがやく秋の田だ  
秋の日だ木から落ちた実どんぐりだ

特選 ボタボタとアイスがとけてひぎの上

特選 タぐれのあまつぶひかる濃紫陽花

秀逸 雨上がり五色の虹が混ざり合う

秀逸 向日葵が太陽めざしのびていく

よるのそらやみにはなたれ大花火  
外の庭子どもみんな水遊び  
かぶとむしかれのとりかたけつて落とす

加太小学校 五年生

デイキャンプとても楽しみはつやくこい  
きゅうり植えぐんぐんのびるどこまでも

特 選 まつくらだどこにあるのかすいかわり

秀 逸 待ってたよピカピカ光る夏の虫

大げんかカブトムシとのたたかいだ  
空見上げ虹がかかってみとれてる

亀山中学校 三年生

秀	秀	秀	秀	秀	秀	特	特	特	特	特
逸	逸	逸	逸	逸	逸	選	選	選	選	選
夕焼やアスファルトにうつる影	太陽のようなきんもくせい <small>の</small> 香りかな	試合終え一緒に染まる夏の夕	背をむける庭に向日葵すねている	紫陽花とサンダルの足を包む水	どうしても捕まえられぬ甲虫	涼しげな風が首元通り抜け	母さんと背丈が同じになった夏	かたつむりせつせつせとかべのぼる	水しぶき地を突きさすや夏の滝	日焼かな別人になる夏休み

サックスと息合わせけりコンクール  
涼しきや海いるときの波の音  
風鈴のかなでる音色美しき  
夕立ちやかかしは見守り田は踊る  
パシヤパシヤとみんなで入るプールかな  
夕暮れや向日葵のごとく笑う君  
七夕にほんとの願い叶うかな  
夜の空星と花火が輝やけり  
あつい夏アイスを食べてひとやすみ  
校庭や赤白帽子あつい秋  
楽しみや最初で最後文化祭  
暗い夜すすきのメロデーー奏でけり

向日葵やいつか越したるそのあたま  
夏休み爽快感じ川の中  
秋がきて吹く風切って走りけり  
夏の日や風鈴がなりめがさめた  
雨あがりまだまだ出ぬか虹の足  
紅葉の葉音色とともに落ちにけり  
夏の夜の宿題おわった夢の中  
あかとんぼ夕日を前に通りけり  
夕食後家族で見るや流れ星  
一日中蟬が鳴いてる夏休み  
ねむれずに聞こえてくるはキリギリス  
風鈴や美しい音水のごとく

夕焼や綺麗で心踊りけり  
運動会汗となみだの競争や  
どんぐりのあまりかわらぬせいくらべ  
更衣え半そでに変え夏が来る  
七夕や出会う二人は星のよう  
彼の顔トマトのように赤くなる  
夕焼や私も町も染めていく  
雨蛙梅雨の終わりを告げりけり  
帰り道友と軒下通り雨  
蓮の花小ぶりながらも池に咲く  
隠れ食い初めて食べる李ジャム  
赤蜻蛉夕日の中へ落ちてゆく

夏休みみんなと一緒に夏祭り  
秋の外寝床から聞く虫の聲  
暑さ消え爽やかな風が静かになる  
おいしそう黄色い芋にかぶりつく  
南風や部活後の汗乾かした  
ボール飛び歓声響く甲子園  
夕焼や自転車走る田んぼ道  
外暑しかげをみつけてかくれけり  
紅葉かな抜け毛のように落ちていく  
大はしやぎ轟く雷鳴藍空に  
声援やあの子に届け体育祭  
炎昼に一人で歩く風の音



暗闇や静寂の中咲く花火  
水の中きれいに泳ぐや雨蛙  
ねころがるうちわも効かぬたたみの上  
からころり転がる氷や舌の上  
薫風や風が走った空の下  
宿題はちゃんと終わるかな夏休み